

# 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p><b>1 教育に関する事項</b>  <b>(1) 入学者の確保</b>                      ○愛媛県小中学校校長会の中学校部会長校、新規理事校及び校長が交代した理事校を校長と教務主事が訪問し、直接、校長に本校の教育・入試・進路等について概要説明を行う。また、地元新居浜市内の中学校については、全ての校長に対して同様の説明を行う。                      ○イベントや研修会等の開催案内をウェブサイトに掲載するとともに、各種メディア(ケーブルテレビ、記者クラブ等)にも情報を発信する。                      ○月1回のメールマガジンを発信する。イベント等、機会あるごとにメールマガジンへの登録案内を行う。                      ○広報推進室を中心に、入学志願者数が前年度を上回るよう中学校訪問等の広報活動を効果的に行う。</p>	<p><b>1 教育に関する事項</b>  <b>(1) 入学者の確保</b>                      ・愛媛県小中学校校長会の新規理事校等については、あいさつを兼ね、本校の概要説明を効果的に行った。また、松山市内全中学校長会にも参加し、同様に概要説明を行うことができ、広報効果としてはかなり期待できるものであった。                      ・イベントや研修会についても、本校ウェブサイトや、各種メディアに広報・取材依頼を行い、大きな効果を得られた。ただ、新聞や情報誌などについては、記事掲載までに時間がかかるため、教職員による打合せなど主立った会議を早めにするなど、今以上に対応の迅速さを求められる課題も見つかった。                      ・メールマガジンについては毎月1回発信するとともに、保護者をはじめより広く本校を知ってもらうため、イベント等、機会あるごとに配信登録の案内を行っている。                      ・広報推進室(入試広報担当)の計画の下、6月頃からの愛媛県内をはじめ近隣の中学校を訪問し、本校の概要説明及び入試に関する情報提供を行うとともに志願者状況等の情報収集を行った。11月頃から第2回目の中学校訪問を行い、具体的な志願者数等の情報収集を行った。また、志願者増加に向けた入試PRの一環として各中学校が主催する学校説明会にも積極的に参加した。広報誌「はばたけ！未来へ」のダイジェスト版を今年度からカラー化し、好評を得た。                      ・入試広報用の学校紹介ビデオを後述する夏季体験学習をはじめ各種広報イベントで活用するほか、上記中学校訪問及び学校説明会においては同ビデオのダイジェスト版を利用して説明を行った。                      ・上記取組の結果、昨年度減少した志願者数が一昨年度並みに回復した。                      ・推薦及び学力双方に志願者がいるにも関わらず、合格者がいなかった中学校2校を対象に第3回目の中学校訪問を行い、入試状況の報告等を行った。</p>
<p>○中学校長、進路指導主事等を対象に地区別の学校説明会を開催する。                      ○夏季体験学習、学校見学会(オープンキャンパス)、学園祭における入試問題解説コーナー、ミニキャンパスツアー等を実施する。                      ○中学生向け広報誌「はばたけ！未来へ」には、女子の在校生や卒業生の活躍の様子を多く掲載し、女子中学生への広報を行う。                      ○上記のほか女子志願者向けの広報誌を活用し、女子志願者確保に努める。</p>	<p>・中学校長、進路指導主事等を対象に行った地区別学校説明会については、例年より多くの参加者があり、本校の広報効果も大いに期待できる結果であった。ただ、例年、地区によって参加者に偏りがあるため、今後は、参加が少ない地区に対して、どのようなアプローチをするか、本校教員による中学校訪問との違いを明確化し、有意義な説明会となるよう内容についても再考する必要がある。また案内文の内容、構成についても考え直す。                      ・中学生を対象に、8月10、11日に夏季体験学習を、9月23日に学校見学会(オープンキャンパス)を実施した。また、中学生に加え小学生も対象とした「ものづくりフェスタ in 松山」を8月25、26日に開催した。                      ・11月には学園祭(国領祭)において、入試情報コーナー(入試過去問題解説を含む)及び受検相談コーナーを開設するとともに学科別のミニキャンパスツアーを実施した。                      ・中学生向け広報誌「はばたけ！未来へ」では、女子の在校生及び卒業生からのメッセージや写真を多く掲載し、女子中学生が興味を引く内容として作成した。今年度の残数を基に、次年度の作成部数に生かしたい。                      ・上記広報誌を愛媛県内を始め近隣の中学校へ配布し、女子志願者を含めた志願者確保のためのPRを行い、昨年度以上の女子学生を確保した。</p>
<p>○各種広報誌等の作成に当たっては、ステークホルダーに適切な情報が伝わるよう配慮する。                      ○ウェブサイトにおいては、常に最新情報が発信できるよう更新に努める。</p>	<p>・各種広報誌、ウェブサイト等については、ステークホルダーに的確に情報が伝わる内容となるよう努めた。                      ・ウェブサイトにおいては、“KOSEN(高専)4.0” イニシアティブ事業のページを設けるなど、常に最新情報が迅速に発信できるよう更新に努めた。</p>
<p>○アドミッションポリシーにふさわしい人材を選抜できるよう推薦選抜及び学力検査を適切に実施する。                      ○正確公正な入試を実施する。</p>	<p>・編入学生においては学力選抜検査を、専攻科生においては推薦選抜検査及び学力選抜検査を実施し、アドミッションポリシーにふさわしい人材の確保ができた。ただ、編入学生の選抜検査において軽微であるが出題ミスがあり、今後、同様のミスが生じないよう業務フロー等を見直した。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○現在進行中のトイレ改善整備計画に基づき、引き続き女子トイレの整備を推進する。</p> <p>○女子学生用施設のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。</p> <p>○本部事務局からの依頼に基づく、入学者の学力水準維持のための取組の調査を検討している。</p> <p>○本部事務局からの依頼に基づく、女子学生等の受入れを推進するための取組の調査を検討している。</p> <p>○本部事務局からの依頼に基づく、志願者確保のための取組の調査を検討している。</p>	<p>・現在進行中のトイレ改善整備計画に基づき、平成29年度も引き続きトイレの整備を進めた。</p> <p>・全教職員を対象に施設ニーズの調査を実施したが、女子学生用の施設ニーズは特になかった。</p> <p>・機構本部事務局からの入学者に関する各種調査に適切に回答した。</p>
<p><b>(2)教育課程の編成等</b></p> <p>○産業構造の急速な変化や地域のニーズ等に対応できる技術者を養成するための学科等の改組や本科・専攻科における新しい教育プログラム設置について、引き続き検討を進める。</p> <p>○今後の高専のあり方について、第4ブロック(中国・四国地区)内の高専と協働して検討を進める。化学系学科を持つ4高専の化学工学協働共有事業は幹事校としてさらに推進する。</p>	<p><b>(2)教育課程の編成等</b></p> <p>・地域の基幹産業を支える次世代型プラント技術者(PE)及びアシスティブテクノロジー(AT)技術者を養成する学科融合的な特別課程を本科・専攻科への設置する計画を平成29年度KOSEN(高専)4.0イニシアティブに申請し、採択された。今年度は長期休業中及び後期の課外活動時間を利用して試行的に実施した。次年度から4年生・5年生の選択科目としてカリキュラムに組み込んでいく。</p> <p>・第4ブロック(中国・四国地区)校長会議において、ブロック内協働共有については組織を見直した上で今後も維持していくことが確認された。本校では、化学系の化学工学の協働共有の幹事校として協働授業等を進めており、6～12月にビデオ教材を作成・共有活用して授業を実施し、9月に協働事業推進会議を開催した。</p>
<p>○運営諮問会議を開催し、地域のニーズ等について外部有識者から意見を伺い、本校の運営に活かす。</p> <p>○企業の求める人材や高専卒業生の評価等について企業へのアンケート調査を実施し、教育課程の編成や授業実施方法の改善等の資料とする。</p>	<p>・2月13日に外部有識者による運営諮問会議を開催し、本校の教育研究活動及び地域連携活動等について意見交換を実施した。そこで得られた意見を今後の学校運営に活用する。</p> <p>・3月に本校において開催する企業説明会に参加する企業を対象に、本校はじめ高専卒業生の評価として、企業の要求を満たしている能力、不足している能力等についてアンケート調査を実施した。アンケート結果については、学内で情報を共有し、今後の教育課程編成、授業実施方法の改善等の資料として活用する。</p>
<p>○学習到達度試験(「数学」、「物理」)の結果を、各科目の担当教員が分析し、FDに役立てるとともに、教員会において報告を行う。</p> <p>○本校においてTOEIC-IPを年2回実施し、3年生以上は全員1回目を、専攻科生は全員2回とも受験させる。また、1、2年生は全員TOEIC-Bridgeを受験させ、これらの成績を参考に、英語力の向上を図る。</p> <p>○四国地区高専英語主任会議において、英語教育について情報交換を行い、教育改善に活かす。</p> <p>○英語プレゼンテーションコンテストに参加する。</p>	<p>・学習到達度試験(「数学」、「物理」)の結果については、各担当教員が解析を行い、その後の指導計画等も含めて次年度教員会で報告し、教員間での情報共有を図ることとしている。</p> <p>・英語力向上のためにTOEIC-IPを年2回実施し、1回目(5月)については3年生以上は原則全員受験させ、未受験の学生についてはTOEIC公開試験又は2回目(11月)のTOEIC-IPを受験するように指導した。試験の結果については教員会で報告し、情報の共有を図っていく。また、1回目の未受験者への対策、低得点者への対策を講じた。さらに、専攻科学生の低得点者対象のTOEIC補習や本科高学年対象の英語学習会をそれぞれ年間を通して週1回希望者に対し実施した。</p> <p>・大学編入受験希望者に対し、英文法や長文読解、英作文などの過去問題について、その解き方の指導を行った。</p> <p>・12月に開催された四国地区高専総合文化祭のスピーチコンテストの出場者に対して、夏季休業前から指導を行った。また、同スピーチコンテストの準備、実施を行った。</p> <p>・2月に全国高専プレゼンテーションコンテストの実行委員会(TV会議)に参加した。</p>
<p>○「勉学アンケート」及び「授業アンケート」を実施、その結果を分析し、教員にフィードバックすることで授業改善につなげる。</p> <p>○「担任アンケート」を実施、その結果を分析し、教員にフィードバックすることで学生指導に活かす。</p>	<p>・授業アンケート、勉学アンケートを実施した。その結果を分析し、教員にフィードバックし、今後の授業改善に活かすこととしている。</p> <p>・担任アンケートを実施した。その結果を基に最優秀教員を選出するとともに、今後の学生指導に活かすように担任にフィードバックした。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○高専機構が主催・共催する全てのコンテストに参加するとともに、その他の高校生及び高専生対象とするコンテスト等にも参加を推奨し、支援する。</p> <p>○学内において「チャレンジプロジェクト」を継続して開催する。</p>	<p>・ロボットコンテストでは2年連続での全国大会出場を目指し健闘したが、予選1回戦での敗退となった。しかしながら参加した2チームとも特別賞を受賞した。このほかプログラミングコンテストでは、競技部門で本選に出場し、デザインコンペティションにも構造デザイン部門で2作品が参加した。また、英語プレゼンテーションコンテストも本選出場を目指し地区予選に出場したが、地区予選敗退となった。</p> <p>・「第14回高校化学グランドコンテスト」では、生物応用化学科の3年生が研究成果を発表し、ポスター賞を受賞した。</p> <p>・学内においては、高専の特徴を活かした活動、地域社会への貢献、ボランティア活動等に対し経費支援(後援会)を行う「チャレンジプロジェクト」として、5プロジェクトが支援を受けそれぞれ活動に取り組んだ。同プロジェクトにより3回目の挑戦となった「Hondaエコマイレッジ チャレンジ全国大会」では、一人乗りクラスで昨年度の記録を更新することができなかったが、二人乗りクラスでは見事5位入賞を果たした。同じく同プロジェクトの支援により参加した第2回高専生サミットでは優秀賞を受賞した。</p> <p>・平成29年度パテントコンテスト(主催:文部科学省ほか)に、4件(個人)応募し、1名が優秀賞(特許出願支援対象)を受賞した。</p>
<p>○新居浜市や社会福祉協議会と連携し、ボランティア機会の周知、推奨を行う。</p> <p>○本校学生会と新居浜市との里親契約に基づき、定期的に本校周辺の清掃を実施する。</p> <p>○課外活動でのボランティア参加を積極的に推進する。</p>	<p>・愛媛県ボランティア活動紹介誌を学内で閲覧できるようにし、ボランティアマインドを醸成している。</p> <p>・新居浜市子育て支援課が県から委託して行う、ひとり親家庭学習支援に参画し、本校の学生が校内施設において、市が公募して参加した生徒に対して学習支援を行った。</p> <p>・学生会と新居浜市との里親契約に基づき、毎週金曜日に本校周辺の清掃を実施している。</p> <p>・ローターアクト部や奇術部による福祉施設訪問等、課外活動として活発にボランティア活動に取り組んでいる。特に奇術部は、日頃、高齢者施設や学童、児童施設を訪問し、手品やジャグリングの演技披露、また、お手玉教室などを通じた交流活動が評価され、「平成29年度青少年の非行・被害防止県民大会」において優良青少年団体として愛媛県知事から表彰された。</p>
<p><b>(3)優れた教員の確保</b></p> <p>○昨年度の教員公募から、公募要領の「その他」の欄に、「多様な背景を持つ教員組織を目指しており、高等教育機関に勤務経験のある方のみならず、高等学校、民間企業、研究機関等に過去に勤務した経験のある方や、海外で研究や経済協力に従事した経験のある方からの積極的な応募を歓迎する」旨の文書を記載しており、今年度も引き続き記載する。</p> <p>○教員公募の際、教職員の人的ネットワークを駆使し、民間企業、近隣の大学等に直接、公募の案内を行い、応募者を増やすとともに、人事委員会において、多様な背景を持つ人材の採用に留意する。</p>	<p><b>(3)優れた教員の確保</b></p> <p>・今年度は、2つの学科(科)において、教員公募を行ったが、2件とも「博士の学位を持つ者(平成29年度末取得見込みを含む)」を応募資格としつつ、多様な背景を持つ教員からの応募を増加させるために、教員の人的ネットワーク(学会メーリングリストなど)を通じて、幅広く公募を行った結果、それぞれ、32名、46名の応募があった。選考の結果、1名は民間会社から国立大学研究員、その後、JSTのA-STEP、同CREST研究員を歴任した者、1名は博士後期課程修了者(平成30年3月修了)を採用することができた。</p>
<p>○「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。</p>	<p>・「高専・両技科大間教員交流制度」では、今年度は、派遣、受入ともに希望者がいなかった。</p> <p>・「同居支援プログラム」では、香川高専及び久留米高専から各1名を受け入れていたが、香川高専からの1名については、平成30年4月から、転籍により新居浜高専の定員内教員となったため、平成30年度については、久留米高専からの1名の受入となる。</p>
<p>○公募要領では、専門科目、一般科目とも「博士の学位を持つ者(又は同等の研究業績を有する者)」を応募資格としており、今後も継続することにより、優れた教育能力を有する者の割合を増加させる。</p>	<p>・今年度は、2つの学科(科)において、教員公募を行ったが、2件とも「博士の学位を持つ者(平成29年度末取得見込みを含む)」を応募資格とし、結果、2件とも応募資格を有する者を採用した。(再掲)</p>
<p>○教員公募では、女性優先公募を原則とするほか、分野によっては、女性限定公募を行うことを人事委員会で検討することにより、女性教員を積極的に採用する。</p> <p>○今年度も「校長と女性教職員との懇談会」を開催し、育児と仕事の両立支援策、女性教員のキャリア形成、就業環境改善等について意見交換を行う。</p> <p>○女性教職員用施設のニーズ調査を実施し、整備計画を策定の上、緊急度等に応じ整備を推進する。</p>	<p>・今年度の教員公募2件とも、女性優先公募により実施したが、応募者数に占める女性の比率は極端に低く、残念ながら、採用には至らなかった。</p> <p>・「校長と女性教職員との懇談会」については、今年度は14名の女性教職員が参加し、設備への要望及び働きやすい体制づくり等について意見を交わした。懇談会は次年度以降も継続して開催する予定である</p> <p>・全教職員を対象に施設ニーズの調査を実施したが、女子教職員用の施設ニーズは特になかった。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○「新任教員研修会」、「中堅教員研修」、「教員研修(管理職研修)」、「講義力向上研修」等に教員を参加させ、教育能力の向上を図る。</p> <p>○四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(以下、「SPOD」という。)-FDプログラム「アクティブラーニング実践(試験紙法)」を本校で開催する。</p> <p>○SPODが主催するFDセミナー等への積極的な参加を促す。</p> <p>○全国高専フォーラムのワークショップに参加し、得られた成果や情報を教員会等で報告する。</p> <p>○前年度に引き続き、学生相談に関するFD講習会を開催する。</p> <p>○FD研修のブロック内での協働について検討を進める。</p>	<p>・新任教員研修会(3名)、中堅教員研修(1名)、教員研修(管理職研修)(1名)、学生指導支援実施責任者研修(1名)、IT人材育成研修会(1名)、学生指導支援実施責任者研修(1名)、学生支援担当教職員研修(教員1名と看護師1名)、CCT+ホルダ研修(1名)に参加させ、教育能力等の向上を図っている。</p> <p>・アクティブ・ラーニングに関する研修として、5月30日に高知大学から講師を招いて、SPOD開設プログラム「アクティブラーニング実践(試験紙法)」を開催し、47名が参加した。</p> <p>・SPOD開設プログラムについては、同事務局からの開催通知を全て学内へメールで周知し参加を推奨し、「授業デザインワークショップ」に1名が参加した。</p> <p>・全国高専フォーラムでは、1名がオーガナイザーとしてオーガナイズドセッションを運営し、3名がポスターセッションにおいて教育研究活動の発表(教員顕彰受賞者の顕彰業績発表を含む。)を行った。そのほか、各セッションやワークショップに7名が参加した。また、同フォーラムで開催されたワークショップ「モデルコアカリキュラムによる教育改善」の内容について、教務主事が教務委員会において報告を行い、委員を通じて学科・科教員と情報を共有した。</p> <p>・8月3日に「発達障害の学生に対する支援について」と題して特別支援教育に関する研修会を開催し、教職員約50名が参加した。しかしながら、参加者が全教職員の半数に及ばなかったため、さらに教職員の意識を高め、参加者を増加させることが課題である。</p> <p>・FD研修にはSPODのFD研修を活用しており、現在ブロック内でのFD研修の協働については、今後検討を進める。</p>
<p>○高専機構の顕彰制度に加えて、学内顕彰も継続して実施する(優秀教員、優秀担任)。</p>	<p>・高専機構の顕彰制度に基づき、最優秀教員2名(一般部門、若手部門各1名)を選出すると同時に、最優秀に続く優秀教員2名を11月に選出した。また、優秀担任を3月に選出した。</p>
<p>○在外研究員及び内地研究員として参加しやすい環境(支援体制)を充実させ、教員の国内外派遣を推進する。</p> <p>○「高専・両技科大間教員交流制度」を活用し、教員の受入・派遣を推進する。(再掲)</p>	<p>・教員の派遣については、校長の指示の下、派遣できる機会があれば、学科の校務分担を見直すこと等により、派遣を最優先させることとしており、今年度は女性教員1名を在外研究員としてニューヨーク市立大学クイーンズ校に派遣した。また、同大学での短期英語研修に女性教員1名が参加した。</p> <p>・次年度においても、男性教員1名が在外研究員としてカリフォルニア大学ロサンゼルス校への派遣が決まっている。</p>
<p><b>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</b></p> <p>○全国高専フォーラム等でモデルコアカリキュラムに関する情報を収集し、学内では対応状況を把握し、Webシラバス導入の準備を進める。</p> <p>○アクティブラーニングに関する研修や到達度評価のためのルーブリック等の研修に参加し、授業内容・方法改善を促進する。</p> <p>○ラーニングマネジメントシステムとして「Web Class」を活用し、学生の予習・復習や自学自習をサポートする。</p> <p>○科目間調整連絡会を開催し、専門基礎科目と専門科目の一層の連携を図る。</p> <p>○学生の授業時間外の主体的な学修を促進するため、前年度に学修単位導入のカリキュラム変更を行い、平成29年度入学生から学年進行で対応する。</p>	<p><b>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</b></p> <p>・全国高専フォーラムの「モデルコアカリキュラムによる教育改善」ワークショップに参加し、今年度のWebシラバス試行への対応を進めている。また、「ICTを活用した教育の質向上と効率化を目指した教育事例と企業との連携教育事例」「情報セキュリティ人材育成に関する教材の紹介」セッションに参加し、情報セキュリティ人材育成事業の実践校として、着実に事業を進めている。</p> <p>・アクティブラーニングに関する研修として、5月30日に高知大学から講師を招いて、SPOD開設プログラム「アクティブラーニング実践(試験紙法)」を開催し、47名が参加した。(再掲)</p> <p>・WebClassを自学・自習教材の提示や勉強アンケート集計等に活用している。</p> <p>・数学、物理の専門基礎科目について、科目間調整連絡会を9月に開催した。</p> <p>・平成29年度入学生から本格的な学修単位の導入を行った。カリキュラムは学年進行で対応している。</p>
<p>○高専機構のシステム連携に関する調査に協力する。</p> <p>○各種システムの先行稼働校と情報を共有する。</p>	<p>・情報戦略責任者会議(8月)に参加し、「学生情報統合システム」の現状について情報収集を行った。また、高専機構のシステム連携に関する調査に協力した。</p> <p>・各種システム(主にメールシステム等)の切替状況について、他高専と情報を共有を行った。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○JABEE認定プログラム(現在1プログラム)については継続審査を受審しないが、教育の質の向上を継続して図るために、学外の有識者及び学内の点検機関等を通じてPDCAサイクルを意識した教育改善活動を行う。</p> <p>○大学改革支援・学位授与機構が行う高等専門学校機関別認証評価の新しい評価基準に基づき、自己点検書の作成準備を行う。</p> <p>また、点検、改善が必要な項目の確認も行う。</p> <p>○各学科に適した資格取得を学生に奨励する。</p>	<p>・継続的な教育の質の向上を図るための学内の点検機関を再整備した。また、2月13日に運営諮問会議を開催し、企業の求める能力等について外部有識者から意見をいただいた。今後の教育改善につなげる。</p> <p>・在学中の資格取得を促進するために、適切な資格試験を学生に提示するとともに、資格取得により単位の認定を行った。また、一部の試験については本校を会場とするなど学生に便宜を図っている。</p>
<p>○中国四国地区専攻科生研究交流会に参加する。</p> <p>○四国地区高専間の学生会交流会、全国高専学生会交流会に参加する。</p> <p>○四国地区高専との連携・交流事業に参加する。</p>	<p>・4月21、22日に宇部高専を主管校に開催された中国・四国地区専攻科生研究交流会に専攻科生19名が参加し、研究発表を行うとともに、他高専の専攻科生との交流を深めた。同交流会は専攻科生の研究発表の振興という当初の役割を終え、今回が最終回となった。</p> <p>・12月9日、10日に本校で開催した第39回四国地区高専総合文化祭において、四国地区の学生会、寮生会及び留学生がそれぞれ交流会を実施した。</p> <p>・弓削商船高専が四国地区高専連携・交流事業として実施した「特別講義」に、本校教員を講師として派遣するとともに、学生も参加した。</p>
<p>○全国高専フォーラム等で、特色ある教育改善活動を報告するとともに、他高専の取組状況等も参考にして教育改善活動を行う。</p>	<p>・全国高専フォーラムでは、1名がオーガナイザーとしてオーガナイズドセッションを運営し、4名がポスターセッションにおいて教育研究活動の発表(教員顕彰受賞者の顕彰業績発表を含む。)を行った。そのほか、各セッションやワークショップに7名が参加した。また、同フォーラムで開催されたワークショップ「モデルコアカリキュラムによる教育改善」の内容について、教務主事が教務委員会において報告を行い、委員を通じて学科・科教員と情報を共有した。(再掲)</p>
<p>○大学改革支援・学位授与機構が行う高等専門学校機関別認証評価の新しい評価基準に基づき、自己点検書の作成準備を行う。(再掲)</p> <p>○ウェブサイトにおいて高等専門学校機関別認証評価(平成26年度受審)の評価結果を公表する。</p>	<p>・大学改革支援・学位授与機構が行う高等専門学校機関別認証評価の新しい評価基準については、当該説明会に出席し情報収集を行うとともに、今後、自己点検書の作成準備を進める予定である。</p> <p>・ウェブサイトにおいて機関別認証評価(平成26年度受審)の評価結果とともに年度計画及びそれに対する実施状況等を公表している。</p>
<p>○本科4年生及び専攻科1年生の全員がインターンシップに参加できるように支援する。また、海外インターンシップへの参加についても支援する。</p> <p>○新居浜工業高等専門学校技術振興協力会(以下、「愛テクフォーラム」という。)の会員企業と連携して現職企業人による講義の充実を図る。</p> <p>○愛媛大学との包括協定により、非常勤講師の推薦(幹旋)やインターンシップ、ものづくりフェスタの開催等を実施する。</p>	<p>・本科4年生及び専攻科1年生全員がインターンシップに参加した。海外インターンシップの派遣先を開拓中である。</p> <p>・5年生の授業科目「経営工学」(全学科:後期)については、主に愛テクフォーラムの会員企業の技術者及び本校OBを講師として授業(13回)を実施した。</p> <p>・非常勤講師の派遣、本校学生のインターンシップ実施のほか、本校の広報活動のひとつである「ものづくりフェスタin松山」の開催を愛媛大学と連携して実施した。</p>
<p>○愛テクフォーラムの法人会員企業の技術者及び本校OBで構成する外部講師による5年生の授業科目「経営工学」を継続して実施する。</p> <p>○知的財産管理技能検定3級合格を目指した「知的財産管理技能検定受験講座」を継続して実施する。</p> <p>○四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との協力事業により、教職員及び学生への知的財産教育の推進のほか、知的財産に関する相談会等の開催を検討する。</p>	<p>・5年生の授業科目「経営工学」(全学科:後期)については、主に愛テクフォーラムの会員企業の技術者及び本校OBを講師として授業(13回)を実施した。(再掲) そのうち、知的財産に関する授業を5学科を3クラスに編成し、各4回実施した。</p> <p>・知的財産管理技能検定(3級)を3月に受験する学生を対象に「知的財産管理技能検定受験講座」を実施した。</p> <p>・四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との協力事業として、1月26日に「第3回知財活動研究会」を実施した。</p> <p>・高専機構と日本弁理士会とが主催する「学生向け知的財産セミナー(概要編)」を電子制御工学科3年生を対象に10月16日に開催した。</p> <p>・愛媛県職業能力開発協会と連携し、「プラント製図」「機械検査」のマイスターによる講習会を機械工学科2、3年生を対象に計24回実施した。</p>
<p>○ISTS(International Symposium on Technology for Sustainability)に、学生を参加させ発表を行う。</p> <p>○ISATE(International Symposium on Advances in Technology Education)に、教員を参加させ発表を行う。</p> <p>○三機関連携事業への積極的な参加を推進する。</p>	<p>・ISTSに生産工学専攻2年生1名を推薦し、参加させた。年度内に校内で成果発表を実施した。</p> <p>・ISATEにおいて電気情報工学科及び一般教養科の教員各1名が連名による発表(1件)を行った。また、数理科1名と一般教養科1名が査読者として参加、協力を行った。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○情報教育センターの情報教育推進部門を中心に、ICTを活用した教育の導入を推進する。</p> <p>○平成29年度から「情報セキュリティ人材育成事業」に実践校として参画し、情報セキュリティ教育の実践・展開を行う。</p> <p>○校内ネットワーク機器を更新する(平成29年8月予定(高専機構共同調達))。</p> <p>○将来の教育用電子計算機システムの構想を検討する。</p>	<p>・ICTを活用した教育のためネットワーク及び演習室の環境整備を推進中である。</p> <p>・「情報セキュリティ人材育成事業」の活動を校内で展開する計画を作成し、一部の学科で実践した。</p> <p>・8月に校内ネットワーク機器を更新した。また、その際発生した不具合については、業者と連携して対応を行った。</p> <p>・BYODの導入も含めた、将来の教育用電子計算機システムの構想検討を開始した。</p>
<p><b>(5) 学生支援・生活支援等</b></p> <p>○既存の学生相談室、特別支援教育推進室及び保健室のほか、新たにメンタルヘルス教育推進室を置き、さらに各室を統括する形で保健管理センターを設置し、各業務の連携を強化するとともに、学生支援の充実を図る。</p> <p>○公的機関の開催するメンタルヘルスに関する講習会には、教員が参加し、学内でも教員会等で報告するなど他の教職員への情報共有を図る。</p> <p>○メンタルヘルスに関する教職員向けの学内研修会を開催する。</p> <p>○1、2年生を対象に不登校学生、いじめ被害の予防対応のために「QUテスト」を行い、全学年を対象に「こころと体の健康調査」を年2回実施する。</p> <p>○非常勤看護師を配置し、精神科医等カウンセラーとの連携強化を図る。</p> <p>○授業料免除の実施について、学生への周知に努める。</p>	<p><b>(5) 学生支援・生活支援等</b></p> <p>・新たに保健管理センターを設置し、保健室の移設、学生相談室の移設、特別支援教育推進室の新規開設を行い、センター内の連携を図った。今後、設備の充実とともに学生指導支援体制を強化する。</p> <p>・日本学生支援機構や高専機構主催の研修、AHEAD JAPANカンファレンス、加えて地域の協議会等に教員を派遣し、主要なものは教員会で報告することにより学内で情報共有を図っている。</p> <p>・8月3日に「発達障害の学生に対する支援について」と題して特別支援教育に関する研修会を開催し、教職員約50名が参加した。しかしながら、参加者が全教職員の半数に及ばなかったため、さらに教職員の意識を高め、参加者を増加させることが課題である。(再掲)</p> <p>・「こころと体の健康調査」は、1回目を4月に実施し、11月に2回目を実施した。「QUテスト」は予算がなく実施できなかったが、これに代わる「いじめアンケート」を学生支援委員会で実施した。</p> <p>・非常勤看護師を午後配置した。これによって、常勤看護師が学生相談インターカーの役割を担い、カウンセラーとの連携を強化することができ、カウンセラー相談件数が増加した。</p> <p>・本科1、2年生にメンタルヘルスの授業を、専攻科1年生にメンタルヘルス講話を実施し、好評であった。</p> <p>・学生相談室だよりを9回発行し、学生にメンタルヘルスなどの知識増進を図った。</p> <p>・授業料免除については、4年生以上の学生に学内掲示及びクラス内掲示により周知に努めた。また、3年生には修了時に担任を通して周知を行った。</p>
<p>○昨年度見直しを行った学寮整備計画に基づき計画的な改修整備の予算要求を行う。また、キャンパスマスタープランへの反映を行う。</p>	<p>・学寮整備計画に基づいた予算要求を継続</p>
<p>○各種奨学金制度(財団法人三浦教育振興財団、財団法人中西奨学会、財団法人ウシオ財団、天野工業技術研究所奨学基金、愛媛県奨学生、公益信託武智義加ものづくり奨学基金、財団法人関育英奨学会、独立行政法人日本学生支援機構など)については、教室への掲示や担任等を通じて、学生への周知(案内)を行う。</p>	<p>・各奨学金について、計画どおり学生への周知を行い、三浦教育振興財団3名、天野工業技術研究所奨学基金1名、財団法人ウシオ財団奨学金1名、中西奨学会奨学金1名、日新奨学会奨学金2名がそれぞれ新規に給与型の奨学金を受けることになった。</p> <p>・今年度から新たに創設された日本学生支援機構の給付型奨学金については、教室への掲示や学級担任を通じて学生へ周知を行った結果、1名が申請を行い、30年度の予約採用生に選定された。</p>
<p>○キャリア教育を推進するため、愛テクフォーラム等とも連携し、学生と地域産業界との情報交換の場を設ける。</p> <p>○校内に設置している「キャリア教育プラザ」の有効利用を図る。</p> <p>○学内での企業説明会を継続して開催する。</p> <p>○1～4年において工場見学等の学外研修を実施する。</p> <p>○本校同窓会と協力した学生への支援活動として、本校卒業の企業OBによる就職相談会を開催する。</p>	<p>・授業の一環で、愛テクフォーラムの会員企業の工場見学を積極的に取り入れるとともに、2月には「会員企業と学生の懇談会」を開催し、キャリア教育の一助とした。</p> <p>・3月1日に本校で開催した企業説明会は、愛テクフォーラムの会員企業全社へ参加の呼びを行うなどした結果、過去最大規模(参加企業:190社)となった。</p> <p>・キャリア教育プラザに各種資料を配架し、学生が利用しやすいものにしたが、周知及び利用促進についての運用面についての課題が残った。</p> <p>・キャリア形成と進路選択の一助とするため、1～4年生を対象に学年、学科ごとに計画を立て、学外での研修(工場見学等)を実施した。</p> <p>・同窓会によるOB・OG交流会を国領祭において実施できたが、学生への周知方法や交流会の実施方法についての改善は必要である。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○施設のニーズ調査、整備要望を踏まえ、策定済みのキャンパスマスタープランの見直しを図る。</p> <p>○各学科等からの整備要望のとりまとめ及び施設パトロールにより校内全体の整備需要・要望を把握の上、施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じた計画的な改善整備を推進する。</p> <p>○施工規模の大小にかかわらず、省エネ型器具、再生材料や木材等の自然資源を積極的に取り入れ、ランニングコスト低減と地球環境に配慮した設計・施工を推進する。</p>	<p>・キャンパスマスタープランについて改訂に向けて作業を継続中である。</p> <p>・各学科等からの整備要望のとりまとめ及び施設パトロールにより校内全体の整備需要・要望を把握の上、今年度の施設整備計画を策定し、緊急度・必要度に応じた計画的な改善整備を進めた。</p> <p>・施工規模の大小にかかわらず、省エネ型器具、再生材料や木材等の自然資源を積極的に取り入れ、ランニングコスト低減と地球環境に配慮した設計・施工を推進した。具体的には、専攻科棟講義室(1)・(2)、合併教室棟リゼンルーム、雄風寮共用部(1～4階廊下等)の照明器具をLED化、電子制御工学科棟・専攻科棟空調機(平成2～5年度導入分)についてインバータ型空調機に更新した。</p>
<p>○唯一、耐震化未実施の弓道場(射場)については、より経済的な構造耐震化方策を再検討する。(is値は基準を満たしているが、q値は基準を満たさない状況である。)</p>	<p>・施工方針を検討中である。</p>
<p>○未処理となっている低濃度のPCB廃棄物は、特別措置法等に基づいた適切な保管に努めており、今後、処理方法について検討をする。</p>	<p>・低濃度PCBの処理について12月に予算配分があり、本校で保有していたPCB廃棄物はすべて処理を完了した。</p>
<p>○学外から講師を招いて、放射線業務従事者研修会及び安全衛生講習会を実施する。</p> <p>○新入生及び新任教職員に「実験実習安全必携」を配付する。</p>	<p>・7月25日に京都大学環境安全保健機構・放射線同位元素総合センターの放射線取扱主任者を講師に招いて放射線業務従事者講習会を開催し、関係教員9名及び技術職員1名が参加した。</p> <p>・今年度の安全衛生講習会として、2月20日に医療法人順風会・労働衛生コンサルタント(医師・医学博士)を招いて、教職員を対象としたメンタルヘルスに関する講演会を開催し、教職員30名が参加した。</p> <p>・新入生へ「実験実習安全必携」の配布を行った。今年度は配布時期が遅くなった。次年度は、機構本部の年度計画を確認し、それに即して配布に努める。</p>
<p>○教職員対象に外部講師によるワーク・ライフ・バランス等に関する研修会を開催する。</p> <p>○学外機関が主催する男女共同参画に関する研修会に男女共同参画推進室員を派遣する。</p> <p>○ワーク・ライフ・バランスに関する具体的な支援事業について、学内教職員への情報発信を促進する。</p> <p>○男女共同参画に関する情報をウェブサイトにおいて発信する。</p>	<p>・11月28日に外部から講師を招いて、ワーク・ライフ・バランスや「イクボス」に関する講演会を開催した。</p> <p>・高専機構主催の「女性研究者交流会」(女性職員1名)に参加した。また、国立女性教育会館主催の「大学等における男女共同参画推進セミナー」(推進室員1名)に参加した。</p> <p>・高専機構が実施している「ALL KOSEN 女性研究者支援総合プログラム」における様々な事業(「研究アドバイザーによる研究活動支援」、「女性研究者等キャリア支援(研究支援員配置)」等)について、女性教職員へ積極的に情報発信を行っている。</p> <p>・「新居浜市女性活躍等推進事業所」に認定され、本校ウェブサイト等でPRを行っている。</p>
<p><b>2 研究や社会連携に関する事項</b></p> <p>○科学研究費の申請・採択率の向上を図るため、多くの採択実績がある、又は審査員経験がある外部講師による採択され易い申請書の書き方等についての講習会を開催するとともに、校長を中心とした研究計画調書のブラッシュアップを行う。</p> <p>○昨年度立ち上げた5つの外部資金獲得グループなどを中心とした科研費採択率アップのための少人数勉強会を推進する。</p> <p>○昨年度に引き続き、外部資金の獲得及び研究力を高めることを目的に、本校教員3名以上のグループで行う研究に対し、研究成果を学術論文誌へ投稿することを義務付けた「共同研究推進費」を公募する。</p> <p>○新たに科学研究費のほか各種財団等が公募する助成金等への申請を推進するため、「外部資金獲得推進経費」を設け、外部資金の獲得増を目指す。</p>	<p><b>2 研究や社会連携に関する事項</b></p> <p>・8月2日に科学研究費の申請・採択件数の増加を目的として、香川大学の教授、准教授2名を講師に迎え、科学研究費助成事業の仕組みや申請書の書き方のポイントについて、審査の観点及び自身の経験を踏まえた講習会を実施した。</p> <p>・9月26日に本校事務部による科学研究費申請に係る手続き及び書き方等について、説明会を実施した。</p> <p>・外部資金獲得のための積極的な活動の試みとして、昨年度立ち上げた数名の教職員で構成する「外部資金獲得グループ」を3グループ(電子技術応用、マシンラーニング応用ラボ、新技術開発・文理融合検討)に再編し、科研費の採択率向上のためにグループ内で相互に申請内容のブラッシュアップなどを行った。</p> <p>・平成29年度分科学研究費の新規採択件数は4件と、昨年度から7件の減となり、今後、採択率の向上、維持が望まれる。</p> <p>・平成30年度分科学研究費の申請に当たっては、校長が全教員に対し個別に申請を働きかけるとともに、すべての研究計画調書についてブラッシュアップを行った。また、今年度構築された「国立高専科研費計画調書査読者ネットワーク」を2名の教員が活用した。その結果、56件の申請となり昨年度から5件の増となった。</p> <p>・研究業績の向上と外部資金獲得を目的に、学術論文誌への投稿を義務付けた校長裁量経費「共同研究推進費」の募集を行い、8件の申請があり3件を採択した。</p> <p>・上記のほか、今年度から科学研究費以外の各種財団等が公募する助成金等への申請を推進するため、各公募ごとに申請可能と考えられる教員を個別に申請を促し、その結果、31件の申請で17件が採択された。また、公募申請者には校長裁量経費「外部資金獲得推進経費」による支援を始めた。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○教員の年間業績報告書を作成し、ウェブサイトで公開をする。</p> <p>○愛テックフォーラム内に本校教員(一般会員)と法人企業会員による勉強会を設け、愛テックフォーラムと連携して企業との共同研究を推進する。</p> <p>○本校が開催する「新居浜高専工業技術懇談会」及び「愛テックフォーラム総会」において、本校の研究シーズ紹介を実施する。</p> <p>○新居浜市役所のロビーにおいて研究シーズ展示を実施する。</p> <p>○イノベーション・ジャパン及び高専機構主導で行う大都市圏での研究シーズ展示会への参加を奨励する。</p>	<p>・6月に前年度における教員及び技術職員の年間業績を報告書としてとりまとめ、本校図書館のウェブサイトに掲載し、広く公表した。</p> <p>・愛テックフォーラム内に会員と本校教員とによる「3D-CAD/CAM/計測」「マシンラーニング」に関する勉強会を立ち上げ、定期的な情報交換を行うなど連携を進めている。</p> <p>・9月11日に地域の企業技術者等を対象とした「第56回新居浜高専工業技術懇談会」を開催し、本校の教員、技術職員各1名のほか、愛媛大学工学部からも3名の教員が参加し、それぞれ研究シーズの発表を行った。また、愛テックフォーラム会員企業の最先端技術の紹介も行った。</p> <p>・11月24日に今年度、高度技術教育研究センター内に設立した「マシンラーニング応用ラボ」における研究事例を紹介する場として「第57回新居浜高専工業技術懇談会」を開催した。</p> <p>・12月5日に「第58回新居浜高専工業技術懇談会」を開催し、本校教員3名の研究シーズ発表を行った。</p> <p>・地元企業との共同研究を推進するため、愛テックフォーラムに働きかけ、研究費の支援を受けて会員企業との共同研究(1件)を行った。</p> <p>・1月に本校の教育研究活動の一部を一般市民に知ってもらうため、新居浜市役所玄関ロビーにおいて高専の概要や研究シーズに関するパネルを1週間展示した。</p> <p>・大都市圏における研究シーズの発表として、次の展示会等にそれぞれ教員1名が参加し、研究成果の発表を行った。</p> <p>① イノベーションジャパン2017 8月31日～9月1日(東京ビッグサイト)</p> <p>② ロボデックス産学連携ロボットフォーラム 1月17日～18日(東京ビッグサイト)</p>
<p>○愛テックフォーラムの法人会員企業の技術者及び本校OBで構成する外部講師による5年生全員が受講する授業科目「経営工学」の中で知的財産教育(90分×4コマ)を継続して実施する。(再掲)</p> <p>○四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との協力事業により、教職員及び学生への知的財産教育の推進のほか、知的財産に関する相談会等の開催を検討する。(再掲)</p> <p>○知的財産管理技能検定3級合格を目指した「知的財産管理技能検定受験講座」を継続して実施する。(再掲)</p> <p>○パテントコンテスト応募支援を奨励する。</p>	<p>・5年生の授業科目「経営工学」(全学科:後期)については、主に愛テックフォーラムの会員企業の技術者及び本校OBを講師として授業(13回)を実施した。そのうち、知的財産に関する授業を5学科を3クラスに編成し、各4回実施した。(再掲)</p> <p>・四国地区高専地域イノベーションセンターと日本弁理士会四国支部との協力事業として、1月26日に「第3回知財活動研究会」を実施した。</p> <p>・高専機構と日本弁理士会とが主催する「学生向け知的財産セミナー(概要編)」を電子制御工学科の3年生を対象に10月16日に開催した。(再掲)</p> <p>・知的財産管理技能検定(3級)を3月に受験する学生を対象に「知的財産管理技能検定受験講座」を実施した。(再掲)</p> <p>・平成29年度パテントコンテスト(主催:文部科学省ほか)に、4件(個人)応募し、1名が優秀賞(特許出願支援対象)を受賞した。(再掲)</p>
<p>○産学官連携コーディネーターを活用し、研究の活性化・促進を図る。</p> <p>○広報誌及びウェブサイト(高度技術教育研究センターページ)に大型研究設備等を掲載し紹介する。</p> <p>○上記ウェブサイトのページに掲載の「最近の研究成果」などの充実を図る。</p> <p>○国立高専研究情報ポータル内「研究シーズ」への掲載を強く推進するとともに、随時の更新を促す。</p> <p>○Researchmapの更新状況を年2回程度チェックし、全教員に更新を促す。</p>	<p>・四国地区産学連携コーディネーター(以下「コーディネーター」という。)の活動により、本校、弓削商船高専及び企業間での研究を進めている。また、コーディネーターの尽力により、本校と理化学研究所間の研究を進めていくことを検討中であり、学術交流会を実施した。</p> <p>・科学技術振興機構(JST)等の外部資金応募時には、コーディネーターからアドバイス等を受けるなど連携を図っており、また、前述にある大都市圏等における研究シーズ発表の場としての各種展示会等への参加もコーディネーターの尽力によるものである。</p> <p>・高度技術教育研究センターのウェブサイト上、本校の「教員研究テーマ紹介」と本校の「所有特許紹介」を新たに掲載した。</p> <p>・同サイトの「最近の研究成果」に2017年度分1件を追加掲載した。</p> <p>・国立高専研究情報ポータルサイト内「研究・技術シーズ」へ全教員の登録を推進し、5名の追加登録を行ったが、引き続き100%掲載に向けて個別に促していく。また、当該「研究・技術シーズ」に登録した情報を利用して今年度末時点での教員研究シーズ集を冊子にまとめ発刊した。</p> <p>・同ポータルサイト内の登録情報については、古い情報のままのものが散見されるので、常に最新情報となるようさらに更新を促していく。</p> <p>・Researchmapの登録状況についても上記同様であるため、改めて更新を促していく。</p>



## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○出前講座の実施に当たっては、参加者に対して満足度等についてアンケートを実施し、その結果を改善充実に反映させる。</p> <p>○新居浜市と連携した新居浜生涯学習大学「新居浜高専市民講座」において、本校独自のアンケートを実施する。</p> <p>○小中学校向け出前サイエンス講座に新たなテーマ追加し、内容の充実を図る。また、ウェブサイトの出前講座のページの継続と充実を図る。</p> <p>○出前講座を活用しながら、地域が推進するものづくり人材育成事業、地域が取り組む事業や協議会等に積極的に協力する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小中学生を対象に30回の出前講座を実施した。さらに、参加者に対する満足度等のアンケート調査も行い、今後の改善に反映させることとしている。</li> <li>・小中学校向け出前サイエンス講座では、新しいテーマを3件追加するとともに、1件についてはテーマの充実を図った。</li> <li>・新居浜市と連携した新居浜生涯学習大学「新居浜高専市民講座」を全8回(5～11月)開催した。毎回、受講者には本校独自の満足度等のアンケート調査を行い、今後の開催方法等の改善に反映させることとしている。</li> <li>・12月16日に科学研究費による研究成果の社会還元・普及事業として、中学生を対象に「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を開催した。本校での開催は平成24年度から6年連続である。</li> <li>・エンジニアリングデザイン教育センター主催で8月18日に地域の小中学校の理科教員及び中学校の技術教員を対象に「夏季実技研修会」を開催し、24名の参加があった。同研修会は、児童生徒の科学技術に対する興味、関心と知的探求心等を育成することを目的とし、実験、実習などの体験的、問題解決的活動を中心とした研修となっている。</li> <li>・例年、教員や技術職員が講師として参加、協力していた新居浜ものづくり人材育成協会が主催する地域の若手企業技術者等を対象とした「ものづくり人材育成研修講座」については、今年度は受講者がいなかったため実施には至らなかった。しかしながら、同協会が今年度新たに創設した「新居浜ものづくりマイスター認定事業」において、教員1名が認定委員として協力することになった。</li> </ul>
<p><b>3 国際交流等に関する事項</b></p> <p>○ISATE (International Symposium on Advances in Technology Education)に、教員を参加させ発表を行う。(再掲)</p> <p>○ISTS (International Symposium on Technology for Sustainability )に、学生を参加させ発表を行う。(再掲)</p> <p>○学术交流協定校の国立聯合大学(台湾)から短期インターンシップ生及び中国語教育実習生を受け入れる。</p> <p>○在外研究員制度を利用し、学术交流協定校を含む海外の研究機関への教員派遣を推奨する。</p> <p>○第4ブロックグローバル高専事業に積極的に協力をするとともに、同ブロック内高専と協働して、学术交流協定校を含む海外の研究機関での海外研修に学生を参加させる。</p>	<p><b>3 国際交流等に関する事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ISATEにおいて電気情報工学科及び一般教養科の教員各1名が連名による発表(1件)を行った。(再掲)</li> <li>・ISTSに生産工学専攻2年生1名を推薦し、参加させた。年度内に学内で成果発表する予定である。(再掲)</li> <li>・国立聯合大学(台湾)からインターンシップ生4名と中国語教育実習生2名を6月から約1か月間受入れた。</li> <li>・女性教員1名を在外研究員としてニューヨーク市立大学クイーンズ校に派遣した。また、同大学での短期英語研修に別の女性教員1名が参加した。(再掲)</li> <li>・第4ブロックグローバル事業に一般教養科から教員2名を委員として参加させている。各種教員研修会についても学内に参加者を募り、毎回参加させた。</li> <li>・学生の海外研修等への参加実績は以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- 台湾文藻外語大学中国語研修 8月27日～9月9日 3名</li> <li>- ISTS 2017 (フィンランド トゥルク応用科学大学) 8月19日～27日 1名</li> <li>- 台湾国立聯合大学カンファレンス 9月4日～10日 1名</li> <li>- シンガポール科学技術研修(ニューアンポリテクニク) 3月10日～2週間 1名</li> <li>- サザンクロス大学(オーストラリア)短期語学研修 3月4日～14日 本校13名、香川高専高松5名</li> <li>- 台湾国立聯合大学海外研修 3月8日～31日 1名</li> </ul> </li> </ul>
<p>○様々な海外留学支援制度についての情報収集を行い、学生への情報提供を行うとともに、留学を希望する学生を支援する。</p> <p>○高専機構主催の海外インターンシップへの参加を推奨するとともに、本校独自の海外インターンシップの実施を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「トビタテ留学JAPAN」の説明会に教職員を参加させ、情報収集を行い、随時学生への情報提供を行った。</li> <li>・高専機構主催の海外インターンシップへの参加を学生に進めたが、希望者はいなかった。また、学术交流協定校におけるインターンシップについては検討中である。</li> </ul>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○外国人学生対象の3年次編入学試験に継続して参加する。</p> <p>○学術交流協定校の国立聯合大学(台湾)から短期インターンシップ生及び中国語教育実習生を受け入れる。(再掲)</p> <p>○「トビタテ！留学JAPAN」への学生の応募を支援する。</p> <p>○留学生に対して、学級担任のほかにも所属学科ごとに担当教員(国際交流推進室員)を配置し、日常の勉学、生活、地域との交流等について指導、助言等の支援を行う。</p> <p>○高専機構主催の会議や研修に参加し、国際交流に関する情報の共有、スキルアップを図る。</p> <p>○短期留学生の受け入れについて、体制面及び施設面での検討を行う。</p>	<p>・外国人学生対象の3年次編入学試験に継続参加した。</p> <p>・国立聯合大学(台湾)からインターンシップ生4名と中国語教育実習生2名を6月から約1か月間受入れた。(再掲)</p> <p>・「トビタテ留学JAPAN」高校生コース第4期に5名が応募し、2名が採用された。</p> <p>・留学生に対して、学級担任のほかにも所属学科ごとに担当教員(国際交流推進室員)を配置し、日常の勉学、生活、地域との交流等について指導、助言等の支援を継続して行った。</p> <p>・国際交流室・国際交流センター長会議に国際交流推進室長が参加した。</p> <p>・今後、前述のインターンシップ生等を受け入れるに当たり、指導教員との連携のあり方の改善を図るとともに、学寮の改修計画に合わせて、受入学生の滞在施設の在り方について検討が必要である。</p>
<p>○留学生の研修旅行を実施する。</p> <p>○留学生を対象に新居浜警察署主催で「防犯・交通安全講話」を実施する。</p> <p>○四国地区高専総合文化祭(本校主催)では、留学生交流イベントを企画・運営する。これに合わせて、「留学生ウィーク」を設け、母国紹介パネルの展示を行うとともに母国紹介講演会を実施する。</p> <p>○新居浜市内の外部団体主催の日本文化研修などのイベントに参加する。</p>	<p>・留学生を対象に当該チューターとともに夏季休暇中に1泊2日(9月21、22日)の日程で研修旅行を実施した。今回は、中国地方(広島、岡山)の歴史的建造物や工場見学を中心に実施した。</p> <p>・新たな留学生(マレーシア政府派遣)3名を加え、4月27日に新居浜警察署による「防犯・交通安全講話」を実施した。</p> <p>・12月4～8日を「留学生ウィーク」とし、母国紹介パネルの展示を行うとともに母国紹介講演会を開催した。また、12月9、10日に本校で第39回四国地区高専総合文化祭を担当・開催し、その中で、四国地区留学生の交流イベントを実施した。</p> <p>・新居浜市内の留学生支援団体が主催するイベント等への参加は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 5月15日 新居浜ユネスコ協会 ラオスからの留学生による母国紹介</li> <li>- 6月25日 日本語スピーチコンテスト(にいほま日本語の会) インドネシアからの留学生が参加</li> <li>- 7月2日 セタゆかたパーティー(新居浜ガイドクラブ)本校留学生と台湾国立聯合大学からの実習生が参加</li> </ul>
<p><b>4 管理運営に関する事項</b></p> <p>○高専機構の年度計画に基づき、効果的・戦略的に予算を再配分し、適正な執行に努めるとともに執行後は内容等を検証し、その結果を次年度以降の配分に反映させる。</p>	<p><b>4 管理運営に関する事項</b></p> <p>・今年度の予算配分においては、これまでの積算方法を見直し、簡素化することで、より円滑に配分を行うことができた。また、これまでの予算配分額及び執行額を検証し、次年度に向けての予算配分の参考となる資料の作成を行った。</p>
<p>○今年度は四国地区高専校長・事務部長会議を幹事校として主催する。</p> <p>○上記会議のほか、第4ブロックの校長会議等にも参加し、ブロック・地区内で管理運営等に関する情報を共有する。</p> <p>○管理職研修に主事を必ず参加させる。</p>	<p>・本校が幹事校として四国地区高専校長・事務部長会議を3回(5月8日、12月4日、3月12日)開催した。また、第4ブロック校長会議(6月21日、3月1日)にも参加した。それぞれ会議の内容は、学内においても校長が運営会議及び教員会において報告することにより学内で情報共有を図っている。</p> <p>・教員研修会(管理職研修)に教務主事を参加させた。</p>
<p>○業務負担軽減の取組として、クラブ活動安全管理指導業務、学生寮日直業務及び学寮指導業務については、引き続き外部委託を実施する。</p>	<p>・クラブ活動安全管理指導業務、学生寮日直業務及び学寮指導業務の外部委託を実施し、教員の負担軽減に努めた。</p>
<p>○高専機構主催の階層別研修等に積極的に教職員を派遣するとともに、教職員全員を対象に高専機構作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づいてセルフチェックを実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>○「コンプライアンス・マニュアル」を利用した教員対象の研修会を実施する。</p>	<p>・コンプライアンスの再認識と意識向上を図るため、8月に高専機構作成の「コンプライアンス・マニュアル」に基づき、全教職員(非常勤職員を含む)を対象にセルフチェックを実施した。それ以降の採用者等についても随時実施した。</p> <p>・7月及び12月の教員会内で実施した「公的研究費等の不正防止等に関する研修会」において「コンプライアンス・マニュアル」を活用した。</p>
<p>○高専相互監査において効率的かつ効果的な監査を実施するため、会計担当職員研修時に監査のマニュアル等に基づき、監査事項やチェック項目の内容を中心に自己点検と相互チェックを行う。</p> <p>○高専機構の策定する不正防止計画に則した取組を確実に実施するため、適正な体制整備に努める。これに加えて、学内内部監査等が適切に実施できるよう、随時監査内容等の見直しを行う。</p>	<p>・今年度の高専相互監査においては、予め自己点検を行い、被監査校として適切に監査を受けることができた。また、監査校として監査を実施し、要改善事項を指摘・報告した。</p> <p>・今年度の状況に合わせて、学内の「会計機関の補助者等に関する規程」の見直しを行い、適正な体制整備に努めた。</p> <p>・学内内部監査については、より適切かつ合理的に実施できるよう方法の見直しを検討している。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p>○高専機構の不正防止計画等における取組状況について定期的に報告を行う。</p> <p>○学内において策定した「適正な会計処理に向けた対応策」の見直しを継続的に実施し、高専機構の不正防止計画とともに周知徹底を図り、不正防止に努める。</p>	<p>・不正防止計画等における各種取組を実施し、定期的に報告を行っている。直近では、6月に取組状況を報告した。</p> <p>・本校の「適正な会計処理に向けた対応策」に基づき対応策を実施しており、内容については、高専機構の規則改正など必要の都度、見直しを行うこととしている。「高専機構の不正防止計画」については、7月及び12月に実施した学内研修において伝えたほか、財務担当ウェブサイトに掲載し周知徹底を図っている。</p>
<p>○SPODが主催するSD研修会、人事院四国事務局が主催する研修会、中四国の国立大学法人が持ち回りで開催している職域別研修会等への事務職員の参加を推進する。</p> <p>○近隣大学及び近隣高専が主催する技術職員対象の研修会に参加させる。</p>	<p>・人事院四国事務局主催の四国地区係長研修に2名、給与実務初任者等研修会(手当・支給)に1名、四国地区女性職員研修に1名参加させた。</p> <p>・国立大学法人が主催するものでは、中国・四国地区国立大学法人等労務担当職員研修会(愛媛大学主催)に1名参加させた。また、11月には中国・四国地区国立大学法人等財務会計事務研修(初級)(岡山大学主催)に1名参加させた。</p> <p>・技術職員の研修では、四国地区国立高専専門学校技術職員研修(香川高専)、中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修(山口大学)、中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会(山口大学)、西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(建設・環境系)(弓削商船)にそれぞれ1名参加させた。</p>
<p>○近隣国立大学法人との積極的な人事交流を推進する。</p> <p>○近隣の高専との間で、事務職員の共同採用及び定期的な人事交流について検討する。</p>	<p>・愛媛大学人事課と協議の結果、来年度についても、今年度で派遣が終了する3名の後任を派遣してもらうこととなった。</p> <p>・今年度から、職員の採用においては、弓削商船高専と共同で実施することとし、統一試験合格者からの採用面接では、新居浜高専を会場として双方の就職希望者に対して共同で面接を実施した。また、選考採用(新居浜高専で実施)では、弓削商船高専の総務課長に面接員として参加いただいた。</p>
<p>○情報セキュリティ関連の委員会等を定期的に開催し、インシデント予防のための対策等について情報共有するとともに、教職員への周知徹底を図る。</p> <p>○高専機構その他機関が実施する情報セキュリティ教育・研修を利用し、教職員の情報セキュリティの意識向上を図る。</p> <p>○高専機構が策定する情報セキュリティ関連の規則、手順等に基づき、本校の規程、手順等の整備(策定・更新)を進める。</p>	<p>・情報セキュリティについては、情報セキュリティ推進委員会を中心に関係各所と情報共有をしながら、インシデント予防のための対策等について、教員会等で教職員に周知を行った。</p> <p>・高専機構その他機関が実施する情報セキュリティに関する研修等(以下のとおり)に情報セキュリティ推進委員会の委員を参加させ、情報セキュリティの意識向上、スキルアップに努めた。</p> <p>「情報セキュリティ技術向上研修」「情報担当者研修会」「IT人材育成研修会」「情報セキュリティ人材育成事業の事業推進会議」「サイバー攻撃対処セミナー」「サイバーセキュリティシンポジウム」</p> <p>・本校の規程、手順等の整備(策定・更新)についてはまだ不十分であるため、今後も検討を進める。</p>
<p>○機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、新居浜高専の年度計画を策定する。</p> <p>○就職率(就職者数/就職希望者数)100%維持を目標とする。</p> <p>○留年の原因を調査し、適切な手段を講じ、留年学生数を前年度より減少させる。</p>	<p>・機構の中期計画及び年度計画を踏まえて、新居浜高専の年度計画を策定した。</p> <p>・平成29年度の就職内定率は本科生・専攻科生ともに100%であり、目標を達成できた。</p> <p>・留年については、教員会において、不合格者が多い科目及び平均点の低い科目の担当教員に対して授業内容の見直しや補習等で不合格者を減らす取組を行っていくよう注意を促した。低学年においては数学・物理の補習を実施した。また、原級留置率・退学率の本校の現状と問題点について、教員会において情報の共有化を図った。</p> <p>・担任アンケートを実施し、退学・留年の原因について分析を行った。</p>

## 平成29年度 年度計画に対する実績報告

新居浜高専 年度計画	年度計画に対応して実施した事業内容
<p><b>5. 業務運営の効率化に関する事項</b></p> <p>○一般管理費縮減のため、予算の計画的な執行と適正な物品管理に努め、各種事業・行事等の実施に当たっては、関係機関等と連携を密にし効率的に運営する。</p> <p>○少額随契基準額を超える契約については、真にやむを得ないものを除き、原則、一般競争入札等により実施するとともに、契約条件等の見直しを行うなど競争性の確保に努める。また、契約の適正化を図るため、一括契約ができるよう計画的に進める。</p> <p>○本校独自に作成している「財務会計マニュアル」をさらに充実させるため、見直し等を行う。</p> <p>○機構本部からの予算配分に基づき、効果的・戦略的な資源配分となるよう学内において最適予算配分を行う。</p>	<p><b>5 業務運営の効率化に関する事項</b></p> <p>・一般管理費等の縮減については、各種印刷物のWeb化による印刷部数の見直しや両面コピー、不要用紙の裏面利用を推進している。また、各種事業・行事等の開催に当たっては、日程や内容の見直しによる経費縮減に努めている。</p> <p>・一般競争入札における一者応札の見直しとして、仕様策定段階で複数者が応札可能な仕様とすることを徹底し、競争性の担保、より安価で適正な価格での契約に努めている。また、物品調達に当たっては、可能な限り一括契約ができるよう計画的に行っている。</p> <p>・本校独自の「財務会計マニュアル」については、現在の状況に則した内容にするため、29年度末に改訂した。</p> <p>・校長裁量経費として配分を行っていた科目の見直しを行い、外部資金獲得のための活動に対し予算を配分するなど、より戦略的な資源配分を行った。</p>
<p><b>6. その他</b></p> <p>特になし</p>	<p><b>6. その他</b></p> <p>特になし</p>